

神楽名

# しろみ 銀鏡神楽

伝承地

銀鏡地区

さいとし  
西都市大字銀鏡

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

銀鏡神楽保存会

代表 濱砂 武久



ししとぎり

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

米良神楽（銀鏡神楽）は、宮崎県で最初に国の重要無形民俗文化財に指定された。

銀鏡は急峻な山地に囲まれ、古くから山間斜面を伐り開いて、雑穀等を収穫する焼畑が行われてきた。焼畑耕作は山から出没する鳥獣の被害がおびただしく、特に猪害は甚大で、人々の生活は農耕と共に狩猟も重要な要素となった。米良神楽の特徴に狩法神事があるが、これは古くからの重要な生活要素が表現されたものと言える。

伝承地の銀鏡神社は、<sup>りゅうぶさやま</sup>霊峰龍房山を御神体とし、山岳信仰を中心として発展した神社である。天和年間（1681～1684）に、銀鏡神社社家の祖先が<sup>うどかぐら</sup>鶴戸山道場で修練した「<sup>うどかぐら</sup>鶴戸神楽」と「<sup>うどきじん</sup>鶴戸鬼神」舞を伝え、これが従来の神楽に強く影響し、発達したものが現在に伝承されている。

修験道や陰陽道、両部神道が織り込まれる中、江戸後期に唯一神道の影響を受け、問答や唱教から仏教色が一掃されているのが特徴である。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 銀鏡神社例大祭... 銀鏡神社、ハナヤ（内神屋）及び祭場（外神屋）で奉納

12月12日: <sup>かどしめさい</sup>門注連祭

13日: 1番 <sup>ほしかぐら</sup>「星神楽」

14～15日: 前夜祭2番～33番

15日: 本殿祭

16日: 六社稻荷祭、ししば祭り

- 小祭り... <sup>ろくしゃいなり</sup>六社稻荷神社、<sup>ぎんきやうざん</sup>銀京山神社、<sup>それいしや</sup>祖霊社等で奉納

## ◆ 演目一覧

1番: 星神楽

2番: <sup>きよやま</sup>清山

3番: 花の舞

4番: 地割

5番: <sup>うどかぐら</sup>鶴戸神楽

6番: <sup>うどきじん</sup>鶴戸鬼神

7番: <sup>へいさし</sup>幣指

8番: <sup>にしのみやだいみょうじん</sup>西之宮大明神

9番: <sup>すみよし</sup>住吉

10番: <sup>しゆくじんさんぼうこうじん</sup>宿神三宝荒神

11番: <sup>はさんまい</sup>初三舞

12番: <sup>ろくしゃいなりだいみょうじん</sup>六社稻荷大明神

13番: <sup>しちしゃいなりだいみょうじん</sup>七社稻荷大明神

14番: <sup>かんし</sup>神崇

15番: <sup>しょうぐん</sup>莊嚴

16番: <sup>しばこうじん</sup>柴荒神

17番: <sup>ひとりつるぎ</sup>一人剣

18番: <sup>わかおだいみょうじん</sup>若男大明神

19番: <sup>かんなぎ</sup>神和

20番: <sup>つなこうじん</sup>綱荒神

21番: <sup>つなかくら</sup>綱神楽

22番: <sup>いせかぐら</sup>伊勢神楽

23番: <sup>たちからお</sup>手力男命

24番: <sup>とかくしみょうじん</sup>戸破明神

25番: <sup>びやっかいきじん</sup>白蓋鬼神

26番: <sup>へや</sup>オキヘ

27番: <sup>へや</sup>室の神

28番: <sup>しちきじん</sup>七鬼神

29番: <sup>ししまい</sup>獅子舞

30番: <sup>みかさこうじん</sup>衣笠荒神

31番: <sup>くりおろし</sup>鎮守

32番: ししとぎり

33番: 神送り

## ◆ 演目の特徴

「にしのみやだいみょうじん西之宮大明神」と「しゆくじんさんぼうこうじん宿神三宝荒神」を重要演目に位置付け、最高の神格で神庭（外神屋）に迎える。銀鏡神社主祭神「西之宮大明神」は宮司が舞う決まりで、ねぎ禰宜が先導し、警護の弓を携えたえびら箆持ちが続き、ほら すいめい法螺の吹鳴と供に出座する。神庭中央の天（あま てんがい天蓋）の下で、ゆったり腰をおとした威厳ある舞を演じる（宿神三宝稻荷神社主祭神「宿神三宝荒神」も同様）。この2演目は銀鏡神社りょうがみ おりい両神の降居と呼ばれ、舞のとき囃すことは禁止されている。

銀鏡では、焼畑等の農作物を猪の被害から守るために狩猟を行い、またその肉も山の恵みとして感謝し食用とした。山の神への畏敬の念と猪の鎮魂を込め「ししとぎり(猪の足跡を辿る意)」や、「ししば祭り」など、狩猟に関する神事が多く含まれている。16日に行われる「ししば祭り(狩法神事)」は、重要な祭事の一つである。

## ◆ その他の特徴

- 面...宿神三宝荒神及び手力男命の2面が、県有形文化財として指定されている
- 楽...笛、締め太鼓、がねすり鉦、楽板
- 装束...宿神三宝荒神の衣装を保管している木箱にてんぼう天保3年（1832）の墨書あり
- 採り物...幣束、太刀大小、脇差、鈴、扇、弓矢、モッソウ飯型、杓子、杓文字、搦り粉木、テゴ等
- 文書...「銀鏡神社御神楽由緒」「銀鏡神社御神楽聞書」が残されている  
「銀鏡神楽式33番解説」（昭和32年(1957) 銀鏡神社）  
「銀鏡神社神楽歌集」（昭和47年(1972)・平成3年(1991) 銀鏡神社）  
「米良山の神楽調査報告書」（令和2年(2020)） 等

## ◆ 伝承の現状・課題

神楽を舞う者は、元来12家に限っていたが、これが減少してきたため、12家以外でも希望者は神楽に参加することができる制度が設けられた。これにより、近年、銀鏡地区外を含め、ほうり若い祝子の参加が増えているが、舞手の高齢化も進んでおり、引き続き後継者の確保が課題である。



西之宮大明神



宿神三宝荒神



宿神三宝荒神上衣